

平成 28 年度

岡山県歯科医師会秋季歯科医学大会

□ 演 題

「壊れない・取れない・体に優しい
補綴のために～新しい修復材料と接着～」

□ 日 時

平成 28 年 10 月 16 日（日）

9 : 30 ～ 13 : 00

□ 会 場

岡山県歯科医師会館 5 階大ホール

日 程

座 長 小野 総一郎

9:30 開 会 会 長 酒井 昭則

9:40 講 演 講 師 清水 博史 先生

12:45 質 疑

13:00 閉 会 副会長 藤井 龍平

■当日、以下のものをご持参下さい。

1. プログラム
2. 日歯生涯研修事業 IC カード

【 講 演 】



「壊れない・取れない・体に優しい 補綴のために～新しい修復材料と接着～」

九州歯科大学歯学部歯学科

口腔機能学講座生体材料学分野 教授

し みず ひろ し
清 水 博 史 先生

【 抄 録 】

近年、接着ブリッジ、CAD/CAM 冠そしてファイバーポストといった治療法が健康保険に次々と導入された。これらの実施には接着が基盤技術として不可欠である。一方、ジルコニアや二ケイ酸リチウムといったいわゆるニューセラミックスが普及してきた。かくして、被着体の種類は増え、対応は複雑になっている。

金属に対する歯科接着の完成度は高い。接着ブリッジは、正しく適応症を選び正しい術式で行えば、大変良好な臨床成績が期待できる。適応症の選択と支台歯のデザインがポイントである。固定性補綴装置の破損に対し、オーバーキャストイングと呼ばれる補修冠を接着する処置法があり、超高齢社会の歯科治療に有効である。接着は有床義歯にも応用できる。構成要素同士の界面の結合強化や汚染防止だけでなく、義歯床の破損のリスクが減る。ただし、圧倒的に条件が悪い。ノンメタルクラスプデンチャーに常温重合レジンを追加する際、素材によって接着挙動がまったく異なるので、種類を知っておく必要がある。セラミックスはいわゆる歯科用陶材とニューセラミックスとで被着面処理法がまったく異なる。歯科用コンポジットレジンに代表される複合材料は、実は接着性に最も乏しい。対象の成分の種類とその比率によって対応を変える必要がある。

最近、演者はバイオミメティクスという設計思想に関心をもっている。生体を発想の源として基本的にはこれを模倣し、新しい材料の創製をはかろうとするものである。この立場から、現在ヒトの歯質に近い機械的性質をもつ新しい材料の開発を目指している。人工象牙質で支台築造を行い、支台歯全体を象牙質化した後、人工エナメル質で歯冠修復するのである。それぞれを接着させて初めて人工材料によるヒト歯に近い構造体が完結する。壊れない、取れない、体に優しい補綴のためには、このような材料とシステムの構築が不可欠と考えている。

【講師略歴】

昭和 57 年 九州歯科大学 卒業
昭和 58 年 長崎大学歯学部助手（歯科補綴学第一講座）
平成 4 年 福岡歯科大学助手（歯科補綴学第 I 講座）
平成 9 年 福岡歯科大学講師（咬合修復学講座有床義歯学分野）
平成 11 年 Texas A&M 大学 Baylor 歯学部客員研究員（Department of Biomaterials Sciences）
平成 15 年 福岡歯科大学助教授
平成 26 年 九州歯科大学教授（口腔機能学講座生体材料学分野）

【著 書】

- ・清水博史、松村英雄、福井淳一、これから始める歯科医師のための接着ブリッジ講座（清水博史編著）、医歯薬出版、2015
- ・清水博史、接着ブリッジ、修復と補綴の Longevity 治療の Re にサヨナラしよう、112-118、デンタルダイヤモンド社、2015
- ・清水博史、大連結子の修理、Denture Repair 部分床義歯・全部床義歯・インプラントオーバーデンチャー、70-71、医歯薬出版、2015
- ・清水博史、松村英雄：口腔内既存の金属補綴装置を活かす接着技法，歯界展望，126(1)，66-75，2015
- ・Shimizu H, Kawaguchi T, Takahashi Y, The current status of the design of resin-bonded fixed partial dentures, splints and overcastings, Jpn Dent Sci Rev, 50, 23-28, 2014

他

【MEMO】